

こんにちは。私はヌルナビラビンティムハマドマクタと申します。ビンティは「誰かの娘」という意味で、男性であれば、「〇〇の息子」という意味のビンを使います。私の名前は長いので、ナビラと呼んで頂けると嬉しいです。

料理を作るのが趣味で、他の人に美味しい料理を出して、その人の笑顔を見ることで、ストレスを解消しています。そして、料理で人と人を繋ぐことができると考えています。パーティや交流会のとき、他の人と一緒に料理を作りながら交流できるし、仲良くなることもできます。

料理を通して、初めて出会った人との話のきっかけになることが多いです。本場マレーシアの料理をごちそうするとき、自国について紹介できますし、他の国の料理を通して、文化や人々などのことも学べます。

私の出身はマレーシアです。マレーシアと聞いたら、どこにあるのか地図で分かりますか？ マレーシアはシンガポールとインドネシアの北方にあり、マンゴーの形のような国です。マレーシアはトロピカル国なので、マンゴーはもちろん甘いランブータン、臭いですが美味しいドリアンなどを手に入れられます。私はドリアンが大好きで、果物として食べられるだけでなく、味噌のように発酵させて魚のスープなどの料理に使えます。

一方、日本のイチゴやぶどうなどの果物はマレーシアでも買えますが、値段が高くて、普段は甘くはないです。そのため、日本にいる間、季節ごとの果物をいつも楽しみにしています。マレーシアで南国の果物がとっても美味しいので、ぜひ遊びに行ってください。

マレーシアでは一番人気があるスポーツはサッカーです。マレーシアのナショナルチームはハリマウマラヤと呼ばれ、ハリマウはトラという意味で、マラヤはマレーシアの昔の名前です。ハリマウマラヤはマレーシアでとっても偉いチームであり、もし国際カップ競争を勝ったら、次の勝った日にたまたま全国休日になります。

また、マレーシアは一年中暖かいので、みんなは普段に冷たい水で毎日2回シャワーをします。しかし、日本人はお風呂に入るということに驚きました。私にとって熱いお風呂につかることについて、びっくりしました。今までも、日本人が使っているお風呂のような温度のお湯に体を全て入れた経験はありません。しかし、冬の時、自分の体に適切な温度のお風呂に入るのを楽しめるようになりました。

また、マレーシアで、トイレを使った後、紙でふくのではなく、ホースの水で洗います。初めて日本のトイレを使った時、ウォッシュレットがあって、びっくりしましたが、素晴らしい技術だと思い、いつか買って帰ろうと思っています。

そして、私の父のように、博士号を取得した上で母国の大学教員になり、社会の役に立つ、そして人々を助けるシステムを作るのが私の夢です。研究はもちろん、学生を育てることに力を入れます。その際、日本で培った知識や人脈、経験も同時に伝えたいと考えています。そうすることで日本や大学、そして世界に恩返しができるからです。

しかし、学費は自分で準備するので、博士課程に進学するためのお金を溜めるために、来年の春から就職します。就職すれば、お金だけではなく、知識やスキルなども増えると考えたからです。

夢を叶えるためにいつか宇都宮大学に戻ってきて博士課程に進学し、成果・経験・知識を合わせて研究したいです。そして、企業と大学で学んだことを学生に還元することで社会に貢献し、物質だけでなく、心も豊かな生活を実現したいです。

現在は光と関係ある研究をしています。本研究は光コムとゴーストイメージングの技術を使って、形状計測の新しいシステムを開発します。本システムは少ない計測回数で不透明、長深度、大型の物体を計測できます。具体的な応用としては、機会の部品、例えば自動車の部品を本システムで形状計測できます。

車の部品を計測する時に、通常は直接接触型の3次元計測器で、1点ずつ座標を取得するため、計測に非常に長い時間がかかります。また、柔らかい素材の対象物体において、計測精度が悪くなります。私たちが提案したシステムはマスクパターンを変え、物体全体から反射された光強度を単一画素カメラで検出することだけで、部品の形状を非破壊・非接触で計測する可能です。そのため、計測時間の短縮だけでなく、計測精度の向上も期待できます。本研究が成功したら、製造企業もお客様も喜んでもらえると考えています。

また、産業用の精密部品から生体細胞までの小さい物体も計測できるようにシステムの改善方法も検討しています。このシステムが改善できたら、製造分野や医療分野などの産業を支えて、社会貢献ができると考えています。

毎月ロターリ米山記念奨学金を頂いているからこそ、日々の生活のバランスが取られ、特に研究に集中することができます。現在は他の大学の教授とも共同研究を行っており、8月にサンティエゴで開催される国際光工学会での発表を準備しています。発表後は論文を完成させて、この技術を幅広い分野で共有できるようにしたいと思っています。長い話しでしたが、ご清聴ありがとうございました。これからもよろしくお願いたします。